

冬に向けた寒さ対策について

12月になり、日ごと寒さが厳しさを増してきています。
今回は、乳牛が寒さを乗り越えられる飼養管理のポイントについて説明します。

◇乳牛は寒さに強い？

乳牛は欧州原産が多いため、耐寒性があります。乳牛が食べた飼料は第1胃内でつねに発酵しているため、湯たんぽを抱えているかのように発熱しています。しかし、子牛は成牛に比べて体重に対する表面積が大きく熱を奪われやすい、体脂肪が少ない、第1胃の発達が未熟で発酵熱の発生が少ないなどの理由から特に寒さに弱い性質を持っています。そのため、特に子牛の寒冷対策が重要になってきます。

◇子牛における飼養管理ポイント

①すきま風を防ぐ

すきま風が直接牛体に当たると体温が下がり、寒冷ストレスにより病気に対する抵抗力が弱くなってしまいます。シートなどを活用し、直接風が当たらないようにしましょう（写真1）。



写真1：すきま風防止のためにビニールで前室を設けたハッチ

②たっぷりの敷料とこまめな交換

体温保持のために夏よりもたっぷり乾いた敷料を入れましょう。敷料を厚く敷くことによって、空気を含み高い保温効果が期待できます。また、冷たい床や濡れた敷料に触れると子牛の体温が奪われてしまいます。体温を維持するためにも敷料をこまめに交換しましょう。豊富な敷料の下にマットやすのこを敷くことでさらなる体温維持に有効です（写真2）。



写真2：たっぷりの敷料と子牛

③子牛の防寒対策

子牛の防寒対策としてカーフジャケットやネックウォーマーなどの防寒グッズがあります。着用することで、表皮体温を維持することができます（写真3）。その他にも湯たんぽや吊り下げ式ヒーターなどが挙げられます。



写真3：カーフジャケットを着た子牛

◇成牛における飼養管理ポイント

①牛床・牛体の管理

牛床や牛体が糞尿で濡れていると熱が伝導し、体温が奪われます。また、糞尿が牛体に付着して固まると体毛の断熱効果がなくなってしまいます。除糞作業をこまめにし、敷料を清潔に保ちましょう。

②換気の実施

換気が不十分だと牛から排出される二酸化炭素、アンモニアなどが牛舎内で滞留してしまいます。牛舎を閉め切らずに、暖かい日は窓を開放する、換気扇を回すなど牛の体温が奪われない程度に換気を行いましょう。

各農場に合わせた寒冷ストレス対策を行い、厳寒期を乗り越えましょう！！

当センターHPも



ご参照下さい